

フォークリフト IoTで管理 豊田織機 マイクロソフトと、世界各地で効率化

日本経済新聞 地域経済

2018年3月14日 2:19 [有料会員限定]

豊田自動織機は米マイクロソフトと組んで全てのモノがネットにつながる「IoT」技術を使い、世界各地にあるフォークリフトを管理する取り組みを始める。車両の稼働状況などをきめ細かく集め、故障の予防や最適な人員配置などにつなげる。今秋をめどに世界共通のシステムを導入し、生産性向上や物流コスト削減を後押しする。

これまで独立していた日本と米国、欧州の3拠点のシステムを統一する。マイクロソフトのクラウドサービスを使い、グローバルに展開する企業のニーズにも迅速に対応できる体制を整える。投資額は今後5年間で20億円程度を見込む。

マイクロソフトと組み、世界各地にあるフォークリフトの稼働やバッテリーの使用状況などのデータを蓄積し、分析する。日米欧にある車両の状況や修理にかかる費用や履歴、耐用年数なども一目で把握できる。

拠点ごとに稼働頻度にばらつきがあれば台数を増減することで効率化できるようになる。今後、車両の稼働状況に合わせて顧客に修理時期を伝え、スタッフが事前に整備し、故障を予防するサービスなどを想定している。コスト削減や作業効率の改善につなげる。

フォークリフトなどが外部と通信し、情報をやり取りする機能は「テレマティクス」と呼ばれており、世界で現在約10万台の車両が対応している。豊田織機は今後5年間で新型車両の約3割への搭載を目指しており「膨大なデータに対応できる強力なプラットフォームが必要」（伊藤寿秀理事）とみる。マイクロソフトのクラウドサービスは安全性が高いうえ、他のシステムとも連携がしやすいという。「リアルタイムで大量のデータをやり取りできる」（豊田織機）と安定性も優れており、同社は自社工場でも同じシステムを使う予定だ。

豊田織機は日本では2016年3月にフォークリフト向けの稼働管理システムを発売した。マイクロソフトと組むことで世界規模でサービス提供できるようにして車両の製造や販売だけでなく、物流効率化の支援サービスまで事業拡大を狙う。

（高橋そら）



豊田自動織機は2016年に売り出した既存のシステムより多くのデータを蓄積、分析できるようにする
(写真は同社提供)

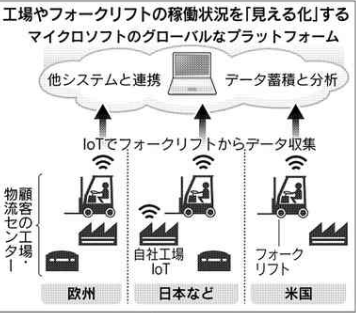
マイクロソフトと世界各地で効率化

これまで独立していた日本と米国、欧州の3拠点のシステムを統一する。マイクロソフトのクラウドサービスを使い、グローバルに展開する企業のニーズにも迅速に対応できる体制を整える。投資額は今後5年間で20億円程度を見込む。マイクロソフトと組み、世界各地にあるフォークリフトの稼働状況を伝

フォークリフト IoTで管理

豊田織機

豊田自動織機はマイクロソフトと組んで全てのモノがネットにつながる「IoT」技術を使い、世界各地にあるフォークリフトを管理する取り組みを始める。車両の稼働状況などをきめ細かく集め、故障の予防や最適な人員配置などにつながる。今秋をめどに世界共通のシステムを導入し、生産性向上や物流コスト削減を後押しする。



る。豊田織機は今後5年間で新車車両の約3割へすいという。リアルタイムで大量のデータをやり取りできる「豊田織機」と安定性も優れており、製造や販売だけでなく、物流効率化の支援サービスまで事業拡大を狙う。(高橋 文)

「膨大なデータに対応できる強力なプラットフォームが必要(伊藤寿秀理)とみる。マイクロソフトのクラウドサービスは安全性が高いうえ、他のシステムとも連携がしやすいという。リアルタイムで大量のデータをやり取りできる(豊田織機)と安定性も優れており、製造や販売だけでなく、物流効率化の支援サービスまで事業拡大を狙う。(高橋 文)」

関連キーワード: コストダウン 事業拡大 豊田自動織機 マイクロソフト インターネット・オブ・シングス